

私たちができる感染症対策の一つ 保健授業の充実（保健は命に直結する教科）

＜昨年の保健「体のせいけつとけんこう」「感染症の予防」から＞



今年の保健「体のせいけつとけんこう」は

寒天培養による菌の繁殖観察と、保健所から借りてきた「手洗いチェッカー」の活用

実験は一人ひとりがやることで、学習内容が**自分事**になるとの思いから、

全員が寒天培養で手のひらの菌の繁殖を確認する



簡易実験装置を製作へ

①子どもの手のひらが入るタッパーを大量に買ってきて2つにカット



③人数の関係で厚さ8mm程度で注ぎ込む
常温 20分で固まります

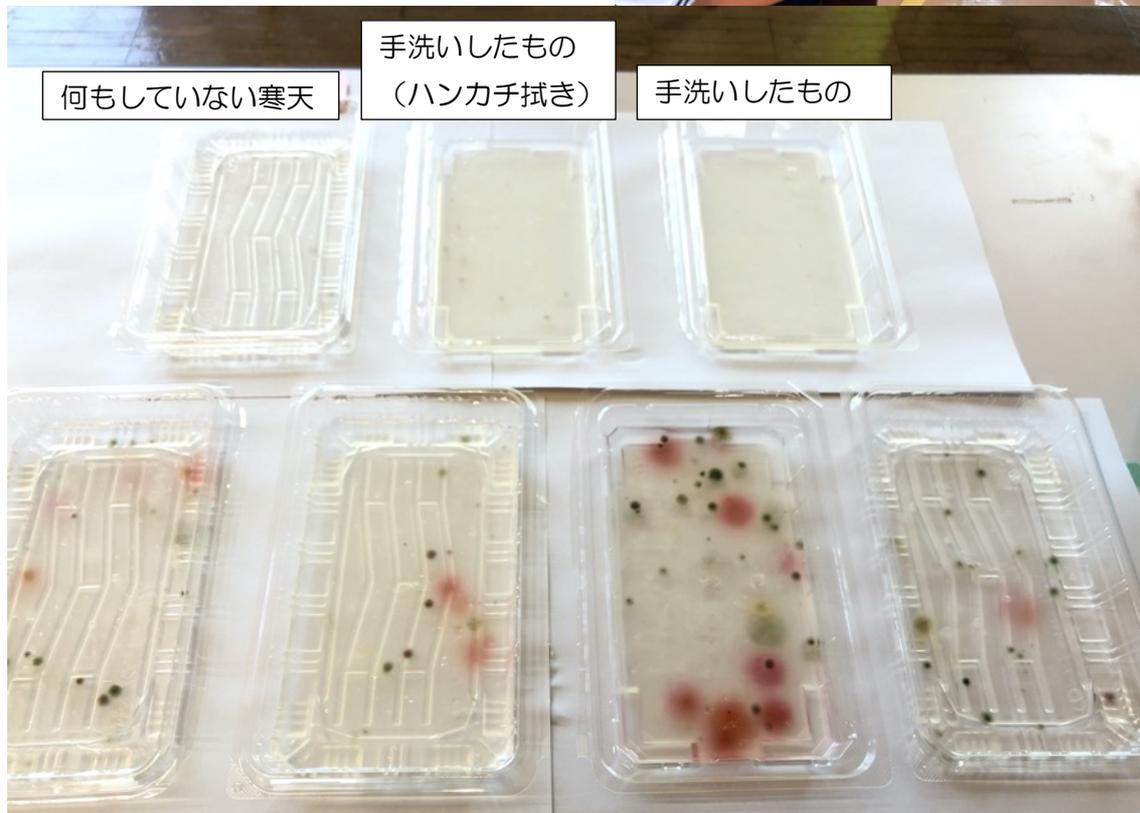


②寒天と片栗粉を弱火で溶かす

今回は、粉寒天 5g、片栗粉 2.5g、水 500ml の割合で弱火で数分加熱しました
(鍋の縁に透明の粒々ができるぐらいに)



④全員が行うことに価値があると思っています
(保健の学習課題が、他人事から自分事へ)



⑤4日後の様子 下の段は子どもたちが手を洗わず手のひらを寒天培地につけたもの
違いがはっきりと出てきました

併せて

ハンドチェッカーで自分の手の汚れも同時確認（こちらはすぐに可視化）



生活様式の変化？

休み時間に何度も何度も手洗いしては確認する
子どもたち



効果抜群でしたので、ハンドチェッカーを今年度の教材備品で購入することにしました

「新ブルーシート投げ」の実践

児童の投能力の低下傾向が引き続き深刻な現状にあることに鑑み、遠投能力の向上を意図し、「内容の取扱い」に「投の運動(遊び)」を加えて指導することができることにした。遠くにカー杯投げることに指導の主眼を置き、投の粗形態の獲得とそれを用いた遠投能力の向上を図ることが主な指導内容となる。

(小学校学習指導要領解説体育編 P. 29)

学習指導要領に追加された「投の運動」の昨年の授業の様子



射的(写真左) : 楽しいが、カー杯だけでなくコントロールも必要

ブルーシート投げ(写真右) : どちらかというところ、投げることより捕る動作の習得が主なねらい



今年は「カー杯投げる」だけをねらいとした バレーのネットに掛けただけの「新ブルーシート投げ」

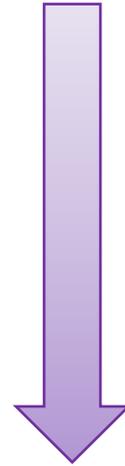
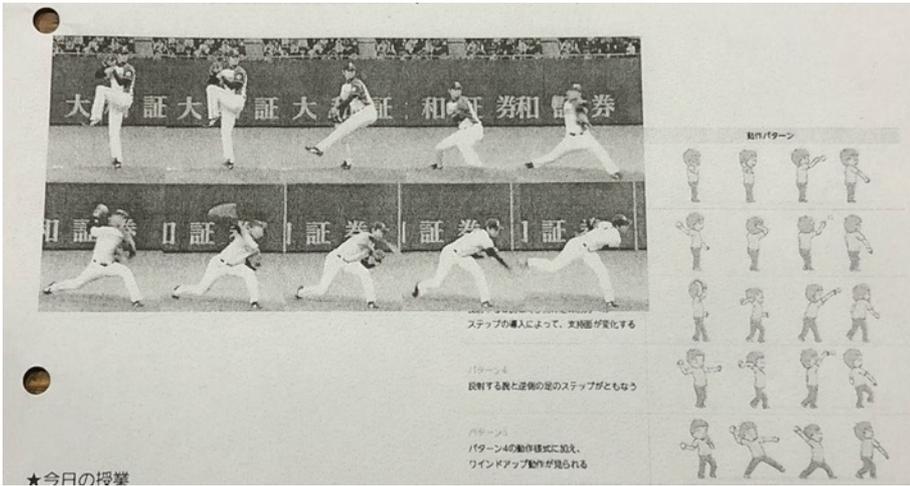
薄手のブルーシートを2枚準備(9人制バレーコートのネットを使用)



ブルーシートにカー杯玉入れの玉をぶつけ、ブルーシートをすり落とすゲーム
勝敗を競ったり、タイムを競ったりと

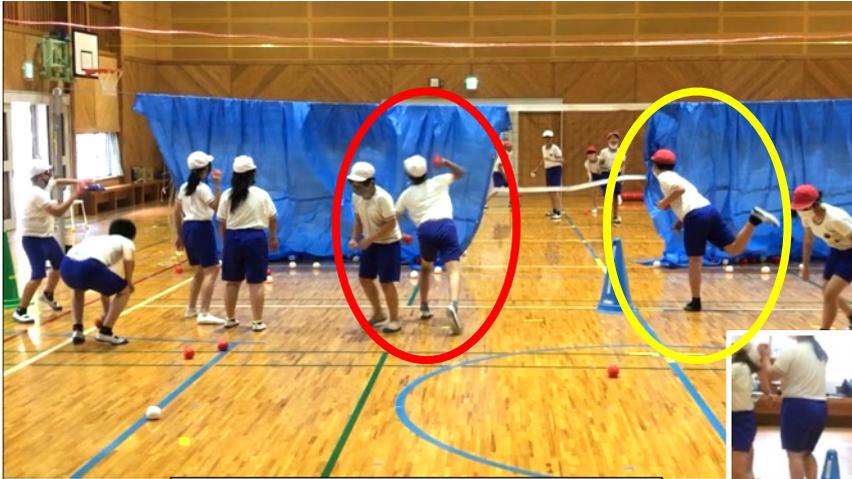
Input

インプット知として学習カードに使った、プロ野球のピッチャーの連続写真と投動作の発達に関する資料



Output

大きく重心移動し、しっかり腕を振り抜くようになった子どもたち（こちらの方がビックリです）



休み時間にあまりドッジボールをしない本校の子どもたちですが、飲み込みが本当に早いです